

日本臨床細胞学会が変わりました。

日本臨床細胞学会は特定非営利活動法人から公益社団法人に変わりました。学会は専門医会と細胞検査士会からなり、会員は正会員と準会員から構成されます。正会員は専門医と正会員に登録した細胞検査士で、正会員に登録しなかった細胞検査士は準会員になります。また細胞診断学推進協会も解散してなくなりました。日本臨床細胞学会の変更に伴い各都道府県の支部会もなくなりますが、実際には名前を変えてそれぞれ都道府県で組織し存続することになる様です。今後の動きに注意をはらって下さい。（文責 野崎）

子宮の日（4月9日）LOVE49キャンペーン活動

今年も全国38都道府県でLOVE49キャンペーン活動が行われた。北海道では4月7日（日）札幌地下街ポールスクエア（地下街三越前広場）にて道央地区会の細胞検査士と臨床検査技師、20名で活動を行った。外はあいにくの天気だったが、地下街のため天気の影響もなく、子宮頸がん啓発資料を1000部配布する事ができた。今年は厚生労働省に加え札幌市、市立札幌病院、日本臨床細胞学会北海道支部からの後援もあり、北海道新聞社からの取材もあった。翌日の朝刊にはLOVE49の活動内容と細胞検査士が大きくとりあげられ、札幌圏内だけの記事ではあったが大きな反響があった。（*新聞記事はホームページにアップしています）





第54回 春期大会(東京) 学会見聞録



「第54回日本臨床細胞学会総会に参加して」 北海道社会事業協会小樽病院 後藤 馨恵子

5月31日～6月2日に東京で行われた、細胞学会春期大会に参加しました。出発の日に小樽から新千歳へ向かう際、乗る予定のJRが故障点検のため運休になるというアクシデントがあり、危うく飛行機に間に合わないところでした。なんとか無事に到着した東京は、例年より早く梅雨入りしていたそうですが、学会期間中はずっと晴れていて気持ちよい天気でした。今回私は、ルーチンで鏡検していて悩むことの多い乳腺の分野と、健診やワクチンで近年話題となっている子宮頸部の分野を中心に、講演に参加しました。これまで学んだ知識を再確認できたり、新たな知識を得ることができたりと、大変充実した学会参加となりました。今回の学会で印象的だったのは、医療安全セミナーが超満員であり、立って聴いている人が会場の外まであふれていたことです。私も会場へ入りきれず、遙か遠くに映し出されたスライドを目を細めて必死に見ていました。内容は、ヒヤリハット防止の取り組みや、実際に訴訟になった例から医療安全について考えるものでした。会員の皆さんの医療安全に対する意識の高さを感じた出来事でした。最後にソムリエの田崎真也さんの講演に参加し、食を愉しむことの素敵さを感じながら北海道へ帰ってきました。帰りに新千歳から小樽へ向かう際には、線路上でビニール傘が炎上したとのことで、乗っていたJRが途中の駅で長らく待機することになりました。帰宅が大幅に遅くなってしまっただけで、何はともあれ、無事に学会に参加でき、無事に小樽へ帰ってこられて良かったです。今回学んだことを生かして、今後も業務を頑張って行きたいと思います。

「第54回日本臨床細胞学会総会(春期大会)見聞録」北海道対がん協会 検査科 市川 浩巳

5月31日(金)～6月2日(日)に、東京のグランドプリンス新高輪国際パミール館で、第54回日本臨床細胞学会総会(春季大会)が開催されました。今回のメインテーマは、「細胞診断学が拓く新たながんの治療戦略—個別化治療への細胞からのメッセージ、その解析—」となっており、がんの個性に合わせた治療が標準治療になりつつある現在、癌細胞が発信するさまざまなメッセージを如何に的確に読み取り、そして解析するかが、細胞診断学が拓く新たながんの治療戦略と言える。現在、分子標的薬は多岐に亘るとともに、その創薬に関しては隔世の感を禁じ得ない。このような背景から、特別講演1「水溶液中の標的タンパク質をシュミレーションして薬を設計する」が行われました。講演は、分子動力学計算というフェムト秒(1000兆分の1)という非常に短い時間毎にクーロン力とファンデルワールス力を計算し、水溶液中のタンパク質の挙動を予測しようとする方法が開発され、非常に高い精度で、薬の親和性が予測できるようになってきたという内容でした。とても専門的用語が多く、自分の勉強不足を痛感しました。シンポジウム1は「子宮頸がん検診におけるHPV検査の位置づけと課題」という標題で、5人のシンポジストが発表しました。従来の子宮頸がん検診とHPV検査の併用検診について、まだはっきりとしたガイドラインは無く、如何に効率よくHPV検査を導入するか?について、活発な質疑応答がありました。その中には、海外の国々の現状についての報告もありましたが、それは日本とは違い、高い検診受診率のもとに行われているものであり、とにかく受診率向上についての対策が最優先と感じました。ワークショップ1は「ベセスダシステムによる細胞学的、臨床学的取扱い、follow-up成績」という標題で、「ASC-H判定の細胞学的検討」について当協会の田上部長が発表しました。当センターにおいてASC-Hと判定された症例について臨床経過を検討し、ASC-Hという曖昧なカテゴリーについて、細胞像、組織診断およびHPV-DNA型について検討した内容でした。一般演題(口演)では「自己採取HPV検査の有用性について」という表題で、当協会の細胞診センター所長の藤田先生が発表されました。自己採取HPV検査は、北海道という広い大地が抱える医師不足という難題の中、地域格差を無くし、効率よく、特に感染率の高い若い世代に有用性が高いという内容でした。質疑応答の中で、藤田先生は意外と大都市東京砂漠でも有用性は高いと言われていたのは、とても興味深い話でした。一般演題(示説)は「子宮内膜における液状検体(LBC)の応用性、有用性について」という表題で当協会の日野さんが発表しました。子宮内膜の液状検体(LBC)に免疫染色を応用して、漿液性腺癌並べにその前段階の病変を的確に診断する際に有力な情報をできるという内容でした。活発な質疑応答がありました。そして、2日目に「HPV-DNA検査併用子宮頸がん検診について」という表題で今回は自分も発表しました。久しぶりの発表に緊張のために、口から心臓が出そうになりました。内容としては、感度の高いHPV-DNA検査と特異度の高い細胞診を併用することで、検診精度(細胞診、予後、検診問題など)を高めることができるというものでした。今回の学会は、4人の参加者全員が発表するという状況で、とても当協会の勤勉さ?の現れではなかったかと手前味噌ながら感じました。天候も梅雨入りしていたにもかかわらず、晴れ続きでまるで自分達を激励しているかのようでした。追伸、自分以外の人は初日に発表が終了し、飲み会では弾けていましたが、自分だけが2日目の発表で緊張感全開で酔えなかったのは言うまでもありません。

平成 24 年度 日本細胞診断学推進協会 細胞検査士会北海道支部 会計決算報告

収入の部

項目	予算	決算	備考
繰越金	478,966	478,966	
会費	280,000	285,000	
講習参加費	400,000	451,000	模擬試験 1 次、2 次 従事者講習会参加費
利息		167	
その他		50,000	第33回日本臨床細胞学会道支部学術集会協力金
合計	1,158,966	1,265,133	

支出の部

項目	予算	決算	備考
通信費	70,000	44,139	各種発送(会報せるさいくる等)
ホームページ運営費	50,000	10,265	ﾌﾞﾗﾝﾄﾞｲﾝｸﾞ料金等
印刷費	50,000	19,000	会報せるさいくる作成等
事務費	50,000	14,326	事務用品
会議費	100,000	106,416	役員会、学術会議 等
講習会費	550,000	411,681	模擬試験 1 次、2 次 従事者講習会参加費
精度管理費	50,000	2,550	ﾌﾟﾚﾊﾟﾗｰﾄﾞｰﾊﾞｲ送料
学術活動準備金	100,000	100,000	学術活動準備積立金へ
啓発活動費	100,000	34,536	"子宮の日"街頭活動費、検査 de フェスティバル
慶弔金	30,000	3,286	弔電(杉戸弘司氏, 中野成紀氏)
予備費	8,966	-	
合計	1,158,966	746,199	

会計監査報告書	
平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 29 日迄の会計監査を実施した結果、会計帳簿、領収証、貯金通帳等に相違は認められず、適正に処理、記載されていることを認めます。	
平成 25 年 4 月 5 日	
細胞診断学推進協会細胞検査士会道支部監査	
田上 隆	前島 澄子

H25 年度への繰越金	518,934
学術活動準備積立金残高	868,277

平成 25 年度 北海道細胞検査士会 事業計画・会計予算 (2013 年 4 月 1 日 ~)

<平成 25 年度細胞検査士会北海道支部事業計画>

事務局関係

- 第 34 回日本臨床細胞学会北海道支部総会
並びに学術集会への協力 11 月 23 日(土)
札幌医科大学臨床教育研究棟講堂
- 細胞検査士会支部代表者会議への出席
2013 年 5 月東京都 2013 年 11 月大阪市
- 細胞検査士会子宮頸がん検診委員会への出席
- 総会・役員会の開催
- その他
 - 細胞検査士会情報発信
 - 北海道医師会新年交礼会への出席
 - 第 30 回北海道医療・福祉関係職能団体等懇談会への出席

総務関係

- 会報発行 せるさいくる第 20 号、第 21 号
- 広報活動
 - LOVE 4 9 子宮の日キャンペーン活動 4 月
 - 検査 de フェスティバル 9 月
- ホームページの充実
- 道内会員へのネットでの連絡・情報提供の試行
- 学会、講演会への協力

学術関係

- 第 21 回プレパレーターサーベイの実施
- 第 26 回細胞診従事者講習会の実施
- 細胞検査士受験のための細胞診講習会の実施
- 講習会の開催(鏡検 or 実技)
- 委員会の開催
- その他: 癌診療拠点病院研修会への協力

<平成 25 年度会計予算>

収入の部

項目	H25 年度予算	備考
繰越金	518,934	
会費	280,000	会員数 295 名(2013/04/1)
講習参加費	400,000	第 26 回細胞診従事者講習会等
合計	1,198,934	

支出の部

項目	H25 年度予算	備考
通信費	70,000	各種発送(会報せるさいくる等)
ホームページ運営費	30,000	ﾌﾞﾗﾝﾄﾞｲﾝｸﾞ料金等
印刷費	30,000	会報せるさいくる作成等
事務費	30,000	事務用品
会議費	130,000	役員会、学術会議 等
講習会費	550,000	第 26 回細胞診従事者講習会等
精度管理費	40,000	ﾌﾟﾚﾊﾟﾗｰﾄﾞｰﾊﾞｲ送料
学術活動準備金	100,000	学術活動準備積立金へ
啓発活動費	100,000	"子宮の日"街頭活動費
慶弔金	20,000	
渉外活動費	60,000	他団体会合参加費、協力金等
予備費	38,934	
合計	1,198,934	

学術活動準備積立金残高	868,277
-------------	---------

学術よりお知らせ

細胞検査士認定試験に向けた講習会、模擬試験を開催しますので該当する方はお忘れなく！また細胞診講習会 の前日 22 日には「細胞検査士を目指す方のための講習会」が札幌臨床検査技師会主催で行われます。こちらも含めてご参加ください。

【細胞診講習会】(一次模擬試験)

日程：平成 25 年 9 月 23 日(祝月) 午前 10 時～ (受付 9 時 30 分～)

札幌医科大学北 1 講義室

* 事前申込あり、北海道細胞検査士会 HP に掲載予定

【細胞検査士を目指す方のための講習会 札幌臨床検査技師会主催】

「婦人科&呼吸器」

日時：平成 25 年 9 月 22 日(日) 14 時～16 時 30 分

会場：北海道大学医学部 臨床講義棟 第 4 講堂

参加費：500 円

* 事前申し込み無し、ころにい 9 月号に案内掲載(ポスターあり)

【細胞診講習会】(二次模擬試験)

日程：11 月 17 日(日) 午前 9 時～午後 4 時 (受付 8 時 30 分～)

札幌医科大学組織実習室

* 事前申込あり、北海道細胞検査士会 HP に掲載予定

今後の予定

細胞検査士認定試験日

一次試験：10 月 13 日(日) 二次試験：12 月 7 日(土)8 日(日)

細胞検査士養成ワークショップ

1) 9 月 14～15 日(土日) 東京：日本大学医学部 2) 9 月 21～22 日(土日) 大阪：大阪医科大学

細胞検査士を目指す方のための講習会 9 月 22 日(日) 北大医学部 臨床講義棟 第 4 講堂

細胞診講習会 (一次模擬試験)：9 月 23 日(祝月) 札幌医大北 1 講義室

細胞診講習会 (二次模擬試験)：11 月 17 日(日) 札幌医大組織実習室

第 52 回秋期大会(大阪) 11 月 2 日(土)～3 日(日) 大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪

北海道臨床細胞学会・総会 11 月 23 日(土) 札幌医科大学教育棟講堂

がん診療連携拠点病院強化事業による尿細胞診研修会

平成 26 年 1 月 11 日(土) 11 時～17 時 25 分 北海道がんセンター3 階大講堂

第 26 回細胞診従事者講習会 平成 26 年 3 月 2 日(日) 札幌医科大学記念ホール

第 55 回春期大会(横浜) 平成 26 年 6 月 5 日(木)～7 日(土) パシフィコ横浜

第 53 回秋期大会：山口県下関市 第 56 回春期大会：鳥取県 第 54 回秋期大会：愛知県

< 編集後記 >

今年は以外と過ごしやすい夏ですが、皆様はいかがですか？今年は学会も公益社団法人となり、細胞検査士会の全国役員も変わり、新たな体制がスタートしています。ホームページなどを活用して最新の情報を入手して、会員お互いに声掛け合い内容を確認し、共有して行きましょう。(野崎)